

## 沼田産シードル ふるさと納税でPR

ぐんま名月 100%を使ったシードルが、市のふるさと納税の返礼品として人気です。深緑色のボトルには、県の郷土かるた「上毛かるた」の読み札「鶴舞う形の群馬県」の鶴、群馬の「G」、ぐんま名月をモチーフにした月をデザイン。重厚さがある見た目とは反対に、リンゴの食感と果糖を生かした甘さを持ち、ジュースのような飲み口から、アルコールが苦手な人にも飲みやすくなっています。

松井さんが園の代表になり約10年。栽培に励む傍ら、育てたリンゴでお酒を造りたいと考えていました。7年前に同郷の藤井達郎さんが営むバーを訪れたことが、シードルづくりの始まりでした。醸造所「Fukiware Ciderrie」の完成により、栽培から醸造までを市内で行い、原料提供を松井さん、製造を藤井さんが担当し、二人三脚で商品化しています。



鶴やリンゴなど県の名産品がデザインされている

松井りんご園 一下発知町一  
代表 松井恵一郎さん



県リンゴ品評会で評価され、笑みを浮かべる松井さんと父・富雄さん

県リンゴ品評会では、最高賞の県知事賞を7年連続受賞。有機肥料で土壌改良し、外観や糖度、品質が評価され、今年も連覇を狙います。「栽培技術を磨いて産地のブランド力を高め、生食もシードルも沼田産としての魅力を発信したい」と意気込みます。

2018年には、リンゴの食味を競う「第6回りんご王者決定戦（青森県弘前市）」で、初出場初優勝を果たしています。

リンゴの販路を拡大しようと、シンガポールやタイなどへ輸出する小野圭介さん。「おいしいものは海外でも伝わる」と魅力を発信し、世界で通用するリンゴを目指しています。

ぐんま名月やおぜの紅など県産品種を中心に、毎シーズン約300キロを出荷。鮮度を保持するスマートフレッシユ処理をすることで収穫時の状態で味わえ「甘くておいしい」と、現地の百貨店などで販売されています。品種や沼田の概要を説明した英語表記のパンフレットを入れたり、商品のラベルには外国人受けするゴールド色を使ったりと、工夫も凝らしています。

日本の果樹は海外でも需要が高く、沼田のリンゴは新たなビジネスの販売ルートを展開できる可能性があるという輸出に挑戦。市の海外販路開拓支援などを活用して、2018年2月にシンガポールを訪れました。店頭に並ぶリン



シンガポールの百貨店に小野さんのリンゴずらりと並ぶ

ゴの味を確かめ、現地の担当者と販売方法を模索しました。

同年に輸出を開始し、今年で4年目。売れ行きは好調で、輸出を始める地域の仲間も増えてきています。今年は霜の影響で例年より出荷量は少ないようですが「継続がリンゴを根付かせ、豊作の年にたくさん投入できる」と力を込めます。地域産業の発展に向けて、販路を拡大する小野さんの手腕に注目です。

## リンゴ販路拡大 東南アジアで人気



輸出用に作った英語表記のラベル

峠の小野りんご園 一佐山町一  
代表 小野圭介さん